

2ヶ月活動に参加できず、3ヶ月ぶりになった10月の第2土曜日、朝方はこの秋一番の冷え込みとなりましたが日中は秋晴れの作業日和となりました。しかし、このところ参加者が少なくなっているのが気になるところです。営業活動が必要だとつくづく感じているのですが、我が身は八日市を離れ参加してもらえそうな方々



竹の油抜き中

との接触機会が少なくなっていることも痛手です。皆様、今一度、身の回りで参加されそうな方があれば一声、お誘いを願えませんでしょうか。

観察会の担当は急遽呼び出された盆栽お宅、秋の森の花めぐりです。まずヒガンバナの不思議からです。通常の生物は遺伝子が一對で2個あり、生殖の際には減数分裂して植物であれば花粉や雌しべがそれぞれ1個の遺伝子を持ち、受粉して元の一対になります。ところがまれに生殖時に半数の1個にならずに2個のままの遺伝子を持った花粉や雌しべが発生しこれに通常の1個の遺伝子を持ったものが受粉すると遺伝子の数は3個になり、これを3倍体(2個と1個がくっ付いています)といい、ヒガンバナの遺伝子はこの状態です(10年9月、148号の河辺林通信にもトコリを例に3倍体の記述有)。日本の秋の風物詩であるヒガンバナは史前帰化植物として中国から伝わった3倍体で減数分裂ができないため種ができず、すべて同じ球根から日本中に広がったと考えられるとか。この森には同様に3倍体で中国からの史前帰化植物と考えられるジャガ、ヤブカンゾウ、ナツメソ(これには日本原産だとの説有)があります。これら3倍体は種ができないので球根や幼根、宿根で増えますが、このところ今まで見なかった森のあちこちに目立つようになり、誰が球根や根を運んだのかは森の謎となっています。ひとつには森が荒廃する前にはもともと咲いていたが、その後、薄暗い森になり息も絶え絶えに花など咲かせる力もなく、かろうじて生き残っていた。遊林会の保全活動の結果、明るくなった場所でそれらの小さな球根が、何年

もかかって花を咲かせる程に回復し目立つようになったと考えるのはいかがでしょうか。かつてこの森で活動を開始した時、次の春に作業で明るくした林床にそれまで見たこともなかったヤブカンゾウの新芽が一斉に吹きだしました。その場所でヤブカンゾウの花が咲くまでには数年かかりました。観察会は草原広場でオギやススキを見比べアキギリヨウソウ観察へと移動しました。このガラス細工のようで妖艶な姿を見つけたのは作業を開始して初めての秋(14年前)です。今年もその姿を見せてくれました。



協力で火力アップ!!

この日の作業はかつてバを植えて竹の発生を抑えた場所の機械刈り、精鋭6人、堤防近くの竹林では長さ6メートルの竹材の伐り出し、ネチャーセンター前まで引き摺りながら運び出しました。この竹は第4水曜日の作業で、作業小屋前の屋根の骨組みに使います。その伐った竹は、午後から、ファイヤークラウドで火にあぶって油抜きをしました。草原広場から花の咲き始めたセウカワワガチヨウ退治班もスタートしました。お昼はこの季節はいつも薩摩芋が中心、冬瓜の煮込みもあり、おいしくいただきはしたのですが…。々が午後の作業に参加しなかった事実だけは報告しておきます。

## ☆第4水曜日の作業

この日は18人が参加、まずは草庫の裏の倒木処理です。手慣れたもので、林内作業車を出す人、切る人、運ぶ人と分担して作業がはかどりました。この日のメイン作業は、作業小屋前の屋根のリニューアルです。竹と防炎シートで作られた屋根は、雪の時や台風の時を豊めるといふ城さんの苦心作です。2代目となる今回も城棟梁の指導の下、竹もシートも新しく張り替えました。お昼のメニューは、かぼちやのシチュー、白菜と豚肉の重ね煮。ブロッコリーとキャベツのサラダなど盛りだくさんでした。デザートに差し入れの丹波グリもありました。15時を超えてまでがんばっていただき、ススキな屋根が完成しました。これで雨の日も安心して活動ができます。

11月の作業日は

11月28日(水曜日) 週日活动 森の居酒屋は11月7日 午後7時頃～

**11月10日(第2土曜日)9時～(遅刻可)**

**主催者：遊林会**

連絡先(遊林会事務局)：滋賀県 東近江市 河辺いきもの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL : <http://www.yurinkai.org/>

E-mail : [ikimono@e-omi.ne.jp](mailto:ikimono@e-omi.ne.jp)

森のブログは「かわべえブログ」で検索!

## ☆10月の木ままクラブ

10月はスタッフが学校対応のため、お馴染みのメンバーが木の伐採、薪割りなどを行いました。  
10/4 8人 まず最初にナラ枯れの枯れ木を1本伐採。その後、ササ刈りをしました。  
10/18 5人 雨のため、テントの下で薪割りをし、倉庫横に積みました。  
11月は1日、22日が活動日です

## ☆河辺いきものの森スタッフルーム情報

やはり10月は大忙しでした!森の休館日は月曜日と祝日の次の日なので、10月は25日開館していました。その間に来訪された団体は打ち合わせなども含めると75団体!一日平均126人も森に来たこととなります。森は常に、にぎやかな声が響き渡っていて、静かだったのは月末の雨の日曜日だけ。この日はとっても静かでした。そんな雨の日でもドングリ拾いに来られた家族もいました。ドングリ工作は小学生や幼稚園・保育園の子どもたちと行うことが多いのですが、親子遠足などでは保護者の方にも実際に刈を使って作ってもらいます。保護者の感想は「見てるとやるのとでは違う!」、そうなんです。ドングリ工作って刈で穴開けて爪楊枝をさすだけで簡単そうに思えますが、どこに穴をあけて、どの向きに爪楊枝をさすかが大事で、それによって出来上がりの雰囲気全然違います。11月に入ってもまだドングリ工作があるので、「さすがスタッフ!」と言ってもらえるようにもう一踏ん張りしたいと思います。

あと、ドングリといえば、最近スタッフルームでは牛乳瓶の中でドングリを飼い始めました。土を入れてドングリを入れるとすぐに土の中にもぐっていきます。幼虫はドングリから出たらすぐに土の中にもぐる習性があるそうです。土にもぐった後は、土の中にサギになるための部屋を作り、サギで冬を越したり、幼虫のまま来年までいたりといろいろな生態があるようなので、これから観察をしていきたいと思えます。水分管理が難しいようなので、ちゃんと育てられたらまた報告します。

毎日忙しい中で、気温の急激な変化もあったので体調を崩すスタッフがちらほら…39℃の熱を出してしまったり、咳がとまらなかったり、喉がいたかったり。また、寒さと作業と(歳…?)で三平トキさんはなんとおじいちゃんのような曲がった腰に!!これにはみんな大爆笑で、しばらくの間あだ名が「じいじ」でした。

10月31日、薪ストーブの煙突掃除を行いました。1年間にたまった煤は想像していたより多くてビックリしました。これでいつ寒くなっても大丈夫!森の木々も色付き始めて、秋からだんだんと冬へと近づいて行っている気がします。

## ☆クリスマスコンサート 12/21(金)19:00から

今年のクリスマスコンサートは、12月21日(金)に行います。演奏者は日本センチュリー交響楽団のピチコ奏者4名で、バツからジャズ、演歌など幅広い楽曲を演奏して下さる予定です!チケットは、11月10日の遊林会から販売し始めます。詳しくは後日ホームページ上でお知らせしますので、またご覧下さい。

## ☆モリイコ!の子どもたち

モリイコ! S、モリイコ!の今年の活動は今回でそれぞれ6回目になりました。10月はまだまだ蚊に刺されながらの活動でした。

モリイコ! Sの第6回目は「植物」がテーマで、午前中は肩たたきを使って葉っぱでたたき染めです。たたき染めとは文字通り、葉っぱなどをたたいて染める染色の手法です。いろんな形や色の葉っぱを取ってきて、刺繍のハチを作りました。アヘアあふれる子どもたちは、細い松の葉を並べて、模様や自分の名前を作って染めている子、星を作る子がいました。事前にたたき染めを試す時に、松の葉なんて色が出ないだろうと叩いてみていなかったのきれいに色や模様ができたことにスタッフは驚かされました。午後からは班で地図を見ながら探検でした。さすが2年目の子ども達は、森の地理もだいたいかんでいし、地図も上手に読んでいました。

モリイコ!は今回からたき火の活動です。今回のたき火は班に分かれて行うのでチームワークが大切です。いつも仲良しのモリイコ!ですが、今回はまず、丸太の上に並んで落ちないように年齢順に並び替えるゲームなどをして、お隣さんの年齢を聞いたり、移動するときには他の子が落ちないように支えてあげたり、少し“協力する気持ち”が生まれるようなプログラムから入りました。今年のモリイコ!は年齢層が低く、マッチを点けるのも初めての子どもが大半で「怖いから一緒にやって!」という子が多かったのですが、自分でもできるんだ!と自信が付いてくると1人でもマッチをすったり、少し傾けて火を大きくしたりして、みんなたくさん練習していました。班に分かれてのたき火では、うちわや火ばさみの役割を交代して、上手く協力できているように感じました。

## ☆11月の作業は…

深まる秋、作業にもよいシーズンになってきました。竹の伐採を中心に行います。食事は食欲の秋にふさわしく大人気の炊き込みご飯を始め、おいしい料理でみなさんのお越しをお待ちしています。

**容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします!**